令 和 ５ 年 度
（２０２３年度）

長崎大学経済学部
「インターンシップ」報告書

長崎大学経済学部

目　　次

ﾍﾟｰｼﾞ

令和５年度「インターンシップ」実施概要　1
　実施事業所、参加学生数、スケジュール概況

「インターンシップ」レポート　3
　ＩＧ会計グループ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　株式会社　十八親和銀行　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　財務省　長崎財務事務所・長崎税関　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
　ひぐちグループ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
　学校法人　鎮西学院　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
　株式会社　イシマル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８
　株式会社　長崎銀行　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
　厚生労働省　長崎労働局　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
　時津町役場　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
　税理士法人　石井会計事務所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
　大村市役所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
　長崎県　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
　長崎市役所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

参考資料　３２
　シラバス「インターンシップ」　３３
　インターンシップ　経済学部独自実施分の受入企業一覧　３５
　２０２３年度　経済学部「インターンシップ」スケジュール　３６

令和５年度　長崎大学経済学部「インターンシップ」報告書
令和６年１月

令和５年度「インターンシップ」実施概要

［実施した事業所、参加学生数等］

（経済学部による独自開拓分）

企業（事業所）：　４　　実習学生数：　１３名

ＩＧ会計グループ、株式会社十八親和銀行、財務省長崎財務事務所・長崎税関、ひぐちグループ

（長崎インターンシップ推進協議会による紹介分）

企業（事業所）：　９　　実習学生数：　１５名

学校法人鎮西学院、株式会社イシマル、株式会社長崎銀行、厚生労働省長崎労働局、時津町役場、税理士法人石井会計事務所、大村市役所、長崎県、長崎市役所

（自己開拓分）

企業（事業所）：　０　　実習学生数：　０名

【合計】

１３企業（事業所）　　実習学生　２８名

※上記のほか、実習学生の体調不良のため、受入先決定後に１企業（事業所）１名の実習が中止となった。

［「インターンシップ」申込者・実習生数］

学生数／募集区分	申込者数			実習生数		
	男	女	計	男	女	計
経済学部による独自開拓分	7	6	１３	7	6	１３
長崎ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ推進協議会による紹介分	7	9	１６	7	8	１５
自己開拓分	0	0	0	0	0	0
合計	１４	１５	２９	１４	１４	２８

※人数はのべ数

［スケジュール概況］

	経済学部による独自開拓	長崎インターンシップ推進協議会による紹介	自己開拓
3月			
4月	■インターンシップ説明会の掲示	■インターンシップ説明会の掲示	■インターンシップ説明会の掲示
5月	■経済学部による独自開拓企業等へインターンシップの受入れについて依頼		■自己開拓に関する書類提出受付開始
6月	■インターンシップ説明会（動画配信） ■募集開始 ■夏季集中講義「インターンシップ」履修登録	■インターンシップ説明会（動画配信） ■募集開始 ■夏季集中講義「インターンシップ」履修登録	
7月	■募集結果発表 ■インターンシップ事前指導 ■受入企業等との協定書又は覚書の締結	■募集結果発表 ■インターンシップ事前指導 ■受入企業等との協定書又は覚書の締結	■自己開拓による受付締切 ■結果発表 ■夏季集中講義「インターンシップ」履修登録 ■インターンシップ事前指導 ■受入企業等との協定書又は覚書の締結
8月	■各受入先でインターンシップ実施	■各受入先でインターンシップ実施	■各受入先でインターンシップ実施
9月	■各受入先でインターンシップ実施 ■インターンシップ事後指導 ■「インターンシップ」成績通知	■各受入先でインターンシップ実施 ■インターンシップ事後指導 ■「インターンシップ」成績通知	■各受入先でインターンシップ実施 ■インターンシップ事後指導 ■「インターンシップ」成績通知

「インターンシップ」レポート

【ＩＧ会計グループ】

私は 8 月 21 日から 8 月 25 日の 5 日間、IG 会計グループのインターンシップに参加した。このインターンシップに参加した理由は、もともと会計の仕事に興味があり、実際に会計事務所の仕事を体験して自分がもっている会計事務所のイメージと同じであるか確認したいと考えたからである。

1 日目・2 日目は IG 会計グループの業務の説明を聞き、実際に仕訳起票や確定申告書の作成など、業務体験を行った。IG 会計グループでは、会計事務所では珍しくコンサルティングも行っていることを知った。コンサルタントの仕事の 1 つに経営相談というものがあった。経営相談は、企業の現状分析を行い、経営計画を立てて目標を達成しているかを確認するというものであった。コンサルティングのことはもともとあまり知らなかったが、話を聞いてとても興味をもった。

3 日目・4 日目は実際に企業の社長さんと売り上げ目標を決めたり、売り上げ目標を達成しているかを確認したりする会議に参加した。売り上げ目標を決めるときは、販売している商品ごとの売り上げをみていき、さまざまな視点から分析を行っていった。そして 5 年後の売り上げ目標を定め、毎年どのくらい売り上げればよいのか、その売り上げ目標を達成するにはどのようなことを行えばよいのかを考えていった。売り上げ目標を達成しているかを確認する会議では、前もって決めていた月の売り上げ目標を達成しているかをみていった。この会議でも、製品ごとに分けて売り上げをみていき、売り上げが悪い商品の原因を考えていった。さまざまな資料をみながら社長さんに経営のアドバイスをしているところがとても印象的だった。売り上げ目標を決めたり、その目標を達成しているかを確認したりする際、企業と一丸となってその企業の経営について考えているのがすごくいいなと感じた。

5 日目は会計について色々教えてもらった。今までなんとなくでしか理解していなかった貸借対照表や損益計算書の見方を教わった。簿記を自分でも大学の授業でも勉強しているが、曖昧に理解している部分が多いなと感じた。これから簿記を勉強する際は、根本から理解したいと考えた。

今回のインターンシップではたくさんの学びを得ることができた。今まではインターンシップに参加するのに少し抵抗があったが、様々な体験ができてたくさんのことを学べることが分かったので、これからは積極的にインターンシップに参加していきたいと考えた。私はもともと会計の仕事に興味があったが、今回 IG 会計グループのインターンシップに参加してより会計の仕事に就きたいと実感した。会計の仕事と言っても、今回のインターンシップで知ったコンサルティングの仕事のように様々な種類の仕事があると思うので、まずは仕事を調べてみてどんな仕事があるのかを調べてみたい。その上で、自分の興味のあるインターンシップに積極的に参加していきたいと考えた。このインターンシップで学んだことを今後の就職活動や大学生活に役立てていきたい。

【ＩＧ会計グループ】

私は 8 月 21 日から 8 月 25 日の 5 日間、IG 会計グループ様のインターンシップに参加しました。私は今まで大学で学んできた「会計」という学問が、実務ではどのように活かされているかを知ることをこのインターンシップでの大きな目的に設定しました。自分の目で実際に見て、体験することで座学ではわからない「職場の雰囲気」や「社員の方々の想い」を感じたいと考えていました。

結論から言うと、私の今回の目的は概ね達成できたと考えています。「会計」を実務で使うということはパソコン上で仕訳や決算書の作成のサポートをするだけではないということに気づかされました。IG 会計グループ様は会計コンサルタント業にも力を入れられているのでコンサル業のお仕事を主に体験させてもらいましたが、そこでは私が想像していたよりもはるか多くの会話が飛び交っていることに驚きました。

インターンシップ 1, 2 日目で財務諸表の見方や会計ソフトの扱い方、見方を教えてもらい、3、４日目に行われる「将軍の日セミナー」に備えました。将軍の日セミナーとは顧問先の社長や経営陣の方々と経営計画を作成する場のことです。私たちインターン生はその経営計画を作成する場に同席させてもらい、経営計画を作成する一連の流れを間近で見させてもらいました。私はその将軍の日セミナーで感じた、顧問先の方々と社員の方々の「距離の近さ、信頼関係の強さ」が非常に印象に残っています。社長クラスの人たちとの一対一の面談でも屈することなく、数字のプロとして的確なアドバイスを提示している社員の方々のお姿に非常に感銘を受けました。社員の方々からは企業を本当に良くしたい、との強い想いが伝わってきました。その想いが顧問先の方々に伝わり、信頼関係につながるのではないかと考えました。私は将軍の日セミナーや顧問先との会議に同席させてもらうことで、「会計事務所で働くためは会計の知識は必要だが、それだけでは不十分である」と気づくことができました。顧問先と一緒に経営計画を作成するということは対話力や理解力、思考力が必要不可欠です。各企業の現状、社長の今後の事業展開の考えなどを十分に加味しながら計画を作成しなければなりません。会計事務所では、記帳代行や決算書作成、その他税務業務などを主に行っていると考えていましたが、それだけではなく会計コンサルタントなど業務の存在も知ることができました。

今回のインターンシップでは実社会での会計の存在についてぼんやりとしか考えられていなかったのがある程度明確に理解することができました。実際に会議に同行させてもらったり、セミナーを受けたりすることで職場の雰囲気や、社員の方々の想いを直に感じることができました。この 5 日間で得られた体験は座学では味わえないものだったと考えています。また、この 5 日間で自分の知識の浅さと視野の狭さを痛感しました。今まで大学の講義などで知識を受動的にしか得ていなかったということに気づかされました。これからは自分の興味のある分野は特に積極的に学んでいかなければならないと考えるようになりました。対面のインターンシップに参加することで自分の視野を広げることができます。会計系の職種に就きたいと考えていましたが、その他の業界についても詳しく知る必要があるのではないかと考えるようになりました。今回の経験を活かしながら今後の就職活動を進めていきたいと考えています。

【ＩＧ会計グループ】

私は、8 月 21 日から 8 月 25 日の 5 日間、IG 会計グループのインターンシップ研修に参加させていただきました。この研修に参加した目的は、会計についての業界理解を深めるためでした。私は、大学で簿記や財務会計の講義を受ける中で、会計の分野にとても興味を惹かれ、それ以来、将来の就職先の選択肢として考えるようになりました。しかし、大学の講義やインターネットでの情報収集にも限界があり、実際に座学で学んだようなことが実務でどう活かされているかまでは知ることができませんでした。そのため、会計という業界についてより深いところまで知り、それをもとに今後の就職活動を有利に進めていくためにも、今回の研修に参加することを決めました。

実際に IG 会計グループでの研修を通して、私は大きく三つのことを学ぶことができました。

一つ目は、社員一人一人が社会人としての自覚をもって働いているということです。毎朝朝礼にて、社員全体で挨拶の練習をし、経営理念を声に出して読みます。そこには一人一人がハキハキと大きな声で練習をする立派な姿がありました。また、社員さんの話を聞いていく中で、「あまりやる気のない業務があったとしても、その仕事は契約先の社長との経営計画を考えていくにあたって重要な仕事だ」とおっしゃられている場面もありました。このように、何事にも真剣で、責任感をもって取り組んでいるところに社会人としての意識を垣間見ることができました。

二つ目は、会計事務所のイメージの変化についてです。もともと会計事務所というと与えられた仕事を淡々とこなし、一日中デスクと向き合って仕事をしているという固定的なイメージが自分の中にありました。しかし実際には、みんなが自分のやるべき仕事を自分で決め、自主的に動いている様子がそこにはありました。資料や報告書の作成をするだけでなく、顧問先を訪問したり、社長の経営相談に乗ったりと 5 日間だけでもいろいろな仕事があるということがわかりました。このようなことを通し、会計事務所へのイメージがガラッと変わりました。

三つ目は、会計事務所で働くためにはもっと知識を身につけておく必要があるということです。研修 4 日目に将軍の日セミナーという、契約先の社長が会計事務所に出向き、事務所の顧問担当者と中期 5 カ年の経営計画を立てるイベントに参加させていただきました。そこではさまざまな業種の社長が各々の顧問担当者と丸一日かけて経営計画を入念に練っていました。会計事務所の人たちはお金のプロなので、経営相談に来た社長は安心して会社のことを任せることができ、お互いに対等な関係で話し合いが行われていました。社長に色々な角度から的確なアドバイスや提案をしている姿に憧れを抱くと同時に、幅広い業種に対応するからこそこの仕事は誰もができることではないのだと感じました。自分の知識の浅さにも気づくことができ、もっと大学生のうちから色々なことを学んでおく必要があると改めて実感するきっかけとなりました。

このように、5 日間の研修だけでも得られるものがいくつもありました。これまで私は就職活動で最終的にどこを目指せばいいか、自分の中ではっきりと答えが出せていませんでした。しかし、今回の研修を通して、改めて会計業界の魅力を知ることができ、自分の中でずっとぶれたままだった軸が定まりつつあるように感じました。この 5 日間での気づきや学んだことを糧にし、今後の就職活動に活かしていきたいと思います。

【株式会社十八親和銀行】

私は8月21日から8月25日までの5日間株式会社十八親和銀行様の下でインターンシップに参加させて頂きました。私自身現在は業界を絞らず就職活動を行っており、兼ねてより金融業界に興味がありましたが、実際どのような業界なのか具体的なイメージがなく、今後の業界に対するイメージをより具体的なものにするため、今回のインターンシップの参加を希望させて頂きました。

初日は私が銀行に対して元々あったイメージ通り銀行の店頭業務に関するオペレーション研修を行い、銀行にとって最も大切な信用を失わないように徹底された確認作業を学ぶことができました。何重にも確認を行い最後に自分の印を押すことで責任を持つ作業を連続して行う店頭業務の緊張感はほかの業界では感じることができないものであり、銀行業務の特徴であると思いました。

インターンシップ後半では私の銀行員のイメージを大きく変える研修内容でした。元々私が持っていた銀行員のイメージは店頭にいらっしゃる方のイメージがほとんどで、お金を扱う仕事というイメージでした。しかし十八親和銀行では地域のデジタル化や地域創生そのものに取り組んでいました。長崎県では人口減少による人手不足で生産性の低下が深刻化していますが、十八親和銀行では実際に行員の方が出向きほかの企業や市と連携を取り問題解決に取り組んでいます。研修を通して銀行は預金管理や融資を行うだけでなく今までの知識や経験から地域創生にまで業務を広げていることが分かりました。

研修では行員1年目の方や、内々定者との座談会を行う時間がありました。そこでは金融業界を選んだ理由や、実際にどのようなスケジュールで就職活動を行っていたのか、働いてみて今どのような感じかなど、具体的な質問だけでなく感覚的な質問をすることができ、より自分の金融業界へのイメージをより鮮明にすることができました。

今回インターンシップに参加して最もよかったと思う点は自分の強みを再確認し、自信を持つことができたことです。元々私は自分の長所は、あまり緊張せずに行動でき、人との関わり方が上手なことと思っていました。5 日間の中で人事部の方とお話をする中で、自分の長所と思っていた部分を実際に褒めて頂くことがあり、自信をもって長所と言っていいんだと思うことができたのは今後の就職活動において大きな一歩であると感じています。5 日間常に私たちのために研修だけでなく悩みや相談を聞いてくださった人事部の方や各部署の方への感謝を忘れずに今回の経験を無駄にしないよう就職活動に生かしていきたいと思います。

【株式会社十八親和銀行】

私は株式会社十八親和銀行のインターンシップに、8 月 21 日から 8 月 26 日の 5 日間参加した。私がインターンシップに参加した理由は、仕事、就活についての具体的なイメージを掴むため、そして銀行の業務内容や雰囲気を知り、業界研究に役立てるためである。

1 日目はオリエンテーションや店頭業務とオペレーション業務、内々定者とのパネルディスカッションがあった。オリエンテーションでは、行員としてだけでなく、社会人としてのマナー全般の話や就活についての話を聞くことができ、とても有意義であった。また、オペレーション業務では、自分が口座を開設した時に使用した機材と同じものを行員側で触れたのでとても面白かった。2 日目は銀行業界についての説明や、行員のモチベーションアップや育成のために何を行っているかの説明、そして資産相談業務、キャッシュレスについての説明があった。特に印象に残ったのは資産相談業務で、内容はグループワークで実際の業務さながら、ヒアリングしたいこと→想定される問題→提案する商品という順で資産の使用先や資産形成の方法を考えた。実際に具体的な商品まで考えるとなるとこんなにも大変なのだと実感した。3 日目は投信のパレットと長崎県経済を中心に座談会やグループワークを行った。投信のパレットについての座談会では、銀行の業務ややりがい、福利厚生に加え、実際に資産形成についてご教示いただけた。長崎県経済についてのグループワークでは長崎の 50 年後をテーマにグループごとで予想、想像して発表した。グループで討論し、発表するということがこれからの就活にとって、とても貴重な経験になったように思う。4 日目は融資業務や職場体験、新入行員との座談会があった。融資業務では、経営学などでよく耳にしていた財務諸表を用いた。大学で学んでいる内容がこのように活きるのかと思うと、就職までにしっかり勉強しないといけないなという気持ちになった。5 日目は、デジタル化推進、地方創生についての説明、そして人事部の方との座談会があった。デジタル化推進の説明では FFG デジタル化推進課の方から FFG のデジタル化(DX)についての取り組みやサービスの内容を聞いた。地方創生については、南島原での MINA コインという事業に尽力された方の話を聞いた。どちらも地銀と聞いてイメージのつかないような業務内容だったため、とても興味深い内容だった。人事部の方との座談会では、採用についての話を本当に様々教えていただいた。

今回のインターンシップでは、銀行業務について知れたのはもちろん、自分の就活に対する意識の低さに気づくことができた。これからの就活では今回の経験を生かしていきたいと思う。

【株式会社十八親和銀行】

私は、8 月 21 日～8 月 25 日の 5 日間、株式会社十八親和銀行のインターンシップに参加させていただきました。今回のインターンシップに参加した理由は、社会人として仕事をしていくうえで必要なスキルや、ビジネスマナーなどを経験し、どのようなスキルが必要か、どのような能力が役に立つのかを把握したいと考えたからです。

5 日間のインターンシップに参加して特に印象に残ったことが 3 つあります。

一つ目は、第一印象の大切さです。インターンシップ一日目の接客のオリエンテーションで、身だしなみや笑顔が与える印象や、電話応対の際の声の印象がどう影響するかを学びました。アイロンのかけられたシャツに、清潔感のある髪型、自信のある話し方から、行員一人ひとりが自分は十八親和銀行の行員の一人であるという自覚と責任感を持って仕事をされていると感じました。

二つ目は、入社して終わりではなく入社後も行員に対してサポートが充実していることです。十八親和銀行の人財開発センターでは、新人研修や入社後の指導をしたり、資格取得のための費用を一部負担したりするなど、人材の育成にとても力を入れています。また、十八親和銀行では「じんざい」を人材ではなく、人財としていることから社員を大切にしている企業であると感じました。十八親和銀行では行員に親身になれるからこそ、行員もお客様に親身に接することができるのではないかと思いました。さらに、新入行員の合宿や、行員だけでの運動会などイベントも充実しており、行員のモチベーションを保つための取り組みも工夫がありました。

三つ目は、実際にインターンシップに参加しないとわからないことが多いということです。インターンシップに参加する前は、銀行に対しては資産運用や融資、為替などお堅いイメージがありました。しかし、地方創生や地元の中小企業のデジタル化推進など地域活性化へ多大な貢献をされていることを知り、イメージが変わりました。また、インターンシップ期間中に、お客様一人ひとりに親身に接し、丁寧で誠実に働いている行員の姿を見て、銀行をとても身近に感じました。十八親和銀行は、自己を大きく成長させることのできる銀行だと思いました。

今回のインターンシップの経験を生かして、たくさんのインターンシップに参加し、たくさんの刺激を受けたいと思いました。社内の雰囲気や会社の施設、労働環境など実際にインターンシップに参加しないとわからないことがあったり、大学では学べないことも学ぶこともできたりしました。今後も様々な業種のインターンシップに参加したいと思います。

【株式会社十八親和銀行】

私は、8 月 21 日から 25 日の 5 日間、株式会社十八親和銀行のインターンシップに参加しました。私はこのインターンシップを通じて、私たちの生活において身近な存在である銀行がどのような業務を行っているのかを学ぶこと、研修を通して自分が身につけるべきスキルを知ることを目標として設定しました。今回の 5 日間のインターンシップのカリキュラムで、部署ごとの業務内容や銀行業界について、内々定者や行員の方との座談会などを通じて様々なことを学ぶことができました。その中でも特に印象に残っていることが 3 つあります。

1 つ目は、資産相談業務の中で学んだ、お客様の人生をよりよくするお手伝いをする「人生の伴走者」という考え方です。まず資産相談業務とは、お客様の状況(年齢・資産)にあわせて、金融のプロとして将来を見据えた提案を行っていくというものです。現在の日本では、モノの値段が上がるインフレの影響でお金の価値が下がっています。そのため、資産を貯蓄するだけではなく投資することが、人生の支出に備えるためには必要になってきているといえます。また、資産相談業務では、お客様の事をよく知ること、見える資産だけで判断しないこと、目的軸と時間軸を意識した提案をすることが大切です。これをふまえて「実際にお客様の設定からヒアリング内容を考え、そこから想定されるニーズ・課題を考え、最終的な提案内容を考える」というグループワークを行いました。このグループワークを通じて、資産相談業務の幅広さと難しさ、個人ではわからない専門的な部分を補ってくれる「人生の伴走者」という言葉の意味を実感しました。

2 つ目は、人材開発センターについての中で学んだ行員への人材育成体系の充実度です。階層別・業務別の集合研修はもちろんのこと、FFG で勤務する行員が所属銀行の枠を超えて業務に応募が出来る行内公募制度というものがあることに驚きました。また、休日に実施されるサタデーカレッジや平日の業務後に実施されるイブニングセミナーなど、自分のライフスタイルに合わせながら、社会人になっても学ぶことができる仕組みに心が惹かれました。このような人材育成体系があることによって、常に向上心を持ち自分のキャリアを形成することができるのではないかと考えることが出来ました。

3 つ目は、座談会の中で聞いた「就職活動をしていくうえで 2,3 年後ではなくより先の未来を見据えて考えた方が良い」というアドバイスです。就職活動をする際にはどうしても今何がしたいのかを中心に考えてしまうけれど、この言葉を聞いて改めて仕事は人生の中で大きな割合を占めるものであるという意識が芽生えました。そのため、今後の就職活動では業務自体のやりがいはもちろんのこと福利厚生やワークライフバランスなどにも注目して企業研究をしていきたいです。

5 日間のインターンシップを通して、当初の目的であった銀行がどのような業務を行っているのかを学ぶだけではなく、長崎において大きなシェアを占める十八親和銀行ならではの取り組みについても学ぶことが出来ました。またグループワークなどを通してのフィードバックから、分析能力のスキルを高めることが必要とわかったので、このスキルを磨きより的確な判断を行えるようになりたいと思いました。最後に、今回のインターンシップで学んだことを、今後の就職活動の中でも意識して積極的に活かしていきたいです。

【株式会社十八親和銀行】

私は８月２１日から２５日までの５日間、株式会社十八親和銀行のインターンシップに参加しました。このインターンシップに参加した理由は、銀行業務への理解を深めたいからと、実際の雰囲気を知りたかったからです。今回のインターンシップに参加するまでは銀行業務と聞くと、窓口業務や支店で事務作業を行うと思っており、外に出て動き回るというよりかはデスクでの事務的な仕事が多いというイメージを持っていました。しかし実際にインターンシップに参加し、５日間かけて様々な業務内容を知ることで銀行は幅広い業務を行っていることを実感し銀行業界についての理解が深まりました。

今回のインターンシップに参加するにあたって２つの目標を立てていました。１つ目は銀行の仕事内容を知り、それぞれの仕事内容に関して良い面だけではなく大変な面も理解することです。仕事説明会などでは時間が限られているため、業界の良い面しか紹介されない場合が多く、それだけの情報で就職活動を進めてしまうと入社後のギャップに苦しむと思います。自分に合う業種なのかをしっかりと見極めるためには、仕事をしていて大変なことや辛かったことを知る必要があると考え、業務内容の説明の際や行員さんとの座談会で質問することを意識しました。そのなかで銀行業務は企業への営業を通して社長さんの相談相手になったり、個人のお客様への資産相談業務を通して将来を支えるお手伝いをしたりなど責任は重いがやりがいを感じられる仕事であることを知り魅力を感じました。

２つ目は積極的な姿勢で参加することです。私は物事に積極的に取り組むほうではなく怠惰な性格でありますが、せっかく５日間も参加するのだから自分から学びにいく姿勢を持とうと考え、グループワークでは中心となってワークに取り組み、班を代表して発表することができました。また毎日３人の行員さんと会話をすることを心掛け、業務に関する話だけではなく個人的な話などいろいろな話をする中で、学生と社会人の考え方の違いを実感し自分の甘さを痛感しました。この５日間で積極的な姿勢を身に着けることができたので、好奇の講義が始まってもこの気持ちをもって取り組んでいきたいです。

５日間のインターンシップを通して十八親和銀行は様々な仕事を経験することができ自分を成長させることができる職場であると思いました。窓口業務や営業の仕事だけではなく、資産相談業務や人材育成に関わる業務、IT 業務、地方創生業務、希望を出せば大都市や海外での業務も可能であり、様々なことに挑戦できる環境であると感じました。実際に行員さんと関わることで、自分がそこで働くイメージを持つことができ今後の就職活動の参考になりました。また今回参加したことで自分の幼さや甘さを実感し、自分自身を見つめなおすきっかけにもなりました。このインターンシップを企画・運営してくださった十八親和銀行の方々をはじめ、その前後でサポートしてくださった方々のおかげで貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。

【財務省　長崎財務事務所・長崎税関】

私は、９月７日（木）から９月１３日（水）までの５日間長崎財務事務所・長崎税関でインターンシップ研修をさせていただきました。私がこのインターンシップに応募した理由は、長崎税関・財務事務所の合同説明会で業務内容や魅力を聞き興味を抱いたからです。

研修先では様々な業務体験を通し、職場での雰囲気や業務への理解を深めるほか自分の成長へつなげることができる機会になりました。金融業務や災害査定立会、貸付審査の長崎財務事務所で行っている業務内容の説明では、大学で学んだ財政や金融の知識と業務の関わりを結びつけられました。業務の説明以外にも国有財産の土地に現地調査や記者レク見学で本格的な業務を体験することができました。特にグループワークで資料や話からでは分からない点や現状報告、活用方法など自分の考えをグループに正確に伝え発表することは思っていたより難しく自分を成長させる機会になったと感じています。また、記者レク見学でのメモ作成のポイントで、文章でまとめる際長く書くのではなくわかりやすく要点をまとめて書くことを意識していると聞き自分も実践していきたいと思いました。

長崎税関では、麻薬探知犬のデモンストレーションや港の取り締まりの見学、旅具検査模擬体験といった体験だけではなく、日本の治安維持の基盤を支えている税関での仕事の役割についてお話を聞かせていただきました。今まで税関の仕事は麻薬探知犬や空港での取り締まりの印象がありましたが、関税を決める仕事や専門性が高い分析業務など幅広い業務経験を積めることができると実感しました。長崎税関と財務事務所でどちらも職員との意見交換をする機会があり、現場で大変だった話や今後アドバイスをもらい自分のキャリアビジョンを考え直すことができました。また、仕事のやりがいやアットホームな職場の雰囲気に触れより魅力に感じました。

５日間のインターンシップの経験で、長崎税関や長崎財務事務所、税務署の貴重な業務を体験する機会になりました。インターンシップの場では、質問する機会がたくさんあり積極性を伸ばすほか自分に足りないものを再認識できました。今回のインターンシップで培った経験を今後の就職活動に生かしていきたいです。

【財務省　長崎財務事務所・長崎税関】

私は、9月7日から１３日の５日間、長崎財務事務所と長崎税関のインターンシップに参加しました。このインターンでは、主に上記の２つの事務所を回り、それぞれの業務の説明と簡単な業務体験を行うというものでした。私がこのインターンを希望した理由は、将来の就職先として公務員を目指しており、現時点では、地方公務員、国家公務員のどちらかは定まっておらず、その参考にするためです。また、長崎大学経済学部で開催された説明会で、財務・税関の職務に興味を抱いたのも一つの要因です。

研修内容は、初日と 4,5 日目に長崎財務事務所、2,3 日目に長崎税関での研修でした。長崎財務事務所の研修では、それぞれの部署ごとの業務説明、意見交換、国有財産の管理、記者レク見学会など幅広く、多くの体験をさせていただきました。特に、国有財産の管理の業務は実際に現地に足を運び、どのような解決策があるかを考え、グループで話し合い、上司に報告するという実際の業務とほぼ同じ内容のものを経験できたことで、財務事務所の具体的な仕事内容を把握でき、財務事務所を志望する参考の一部とすることが出来ました。

長崎税関では、九州の本館の一つという事で大きな建物に圧倒されました。税関でも様々な業務があり、それらの概要を聞き、麻薬探知犬、移動式Ｘ検査デモ、松が枝ターミナルの見学、旅具検査体験、などここでも数多くの業務を体験・見学させていただきました。これらの体験・見学で、実際に自分が働く姿を想像でき、更に「楽しそう」という今まで公務員の業務で感じなかった感情を感じることが出来ました。

このインターンで、一番の目標であった、今後の公務員の職種選びの参考にするが実際の体験・見学、意見交換などを通して達成でき、更に今の自分にもっと必要だと感じた「時間管理能力」を見つけることもでき、とても有意義なインターンとなりました。また、実際に研修先に行くと若手職員から、中堅の職員まですべての方が自分たちを歓迎して頂き、楽しくインターに参加することが出来ました。職員の方が優しく、丁寧に教えて下さるため、緊張しすぎることもなく、職場の雰囲気の良さも感じながらカリキュラムをこなすことが出来、とても魅力のある職場に感じました。そして、同じ公務員を目指す者として、互いに切磋琢磨しあい、モチベーションを上げながら、これからの勉強に精を出すインターン参加者の友達も作ることが出来、本当に１分１秒も無駄のないインターンにすることが出来ました。この経験を活かして、これからの学生生活を送っていきたいと思います。

【財務省　長崎財務事務所・長崎税関】

私は、9 月 7 日（木）～9 月 13 日（水）の土日を除いた 5 日間、福岡財務支局長崎財務事務所・長崎税関のインターンシップに参加させていただきました。今回のインターンシップに参加した目的は、財務局と長崎税関の仕事内容や地域や地域の人とどのように向き合っているのかを知るためです。

1 日目は、若手職員の方との意見交換をしました。「転勤についてどう思っているのか」「なぜこの仕事を選んだのか」などそれぞれ聞きたいことや気になっていることをお聞きすることができ、色んな不安が解けました。他に、金融や財政に関する業務説明をした後災害査定立会、予備執行調査をしました。とても専門性が高くて自分には難しい内容でしたが、ビデオでの説明があり理解がしやすかったです。2 日目は、長崎税務署で業務説明と職員の方に質問する時間がありました。その後長崎税関に行き、業務説明や麻薬探知犬デモ長崎港周辺散策、松が枝ターミナル見学があり、一番麻薬探知犬デモが印象に残りました。麻薬探知犬のトレーニングは過酷なものを想像していたけど全然そのようなことはなく麻薬探知犬が楽しめるような環境が整っていて犬にとって訓練は全然苦ではないものだと分かって少し安心しました。3 日目は最後の税関で、X 線検査デモや旅具検査体験がありどちらも貴重な経験で楽しかったですが旅具検査が一番でした。よく空港などで税関職員が荷物検査している仕事で、難しいことは分かっていたがすることや気にすることが多くて改めて凄さを認識しました。私が体験した時は、検査し終わった覚醒剤の代わりのものを職員さんに巧妙に取られましたが全然気づきませんでした。税関職員の方は検査を隈なくなおかつ迅速に行っていることを考えたら、自分が税関に入関して検査を一人前にするには相当の時間が必要だなと思いました。4 日目は、係長クラス以上の職員の方と意見交換して現地調査、グループワーク、日本銀行長崎支店見学をしました。特に係長クラス以上の職員の方と意見交換した体験は自分の将来の選択をするうえで貴重な体験になりました。5 日目は、貸付審査や記者レクのメモ作成をしました。会話の内容を全て聞きメモを取ることは慣れていないとメモしきれないくらい難しかったです。

今回のインターンシップでは、財務局の仕事を詳しく知れたことに加え自分に足りないこと逆に長所を見つけることができました。自分に足りないことは、思考力の低さです。グループワークをすることが多かったですが、全体を通して良い意見を出すことができませんでした。意見を出すことにも価値はあると思いますが、より良い意見を出してこそ社会人に近づけると思うので残り少ない大学生活を思考力の高めるようにしたいと思います。また、自分は行動力があるということにも気づくことができました。欠点を改善し長所を伸ばしつつ、長所を増やしていきたいと思います。

【財務省　長崎財務事務所・長崎税関】

私は、9 月 7 日（木）～9 月 13 日（水）の 5 日間で、福岡財務支局長崎財務事務所・長崎税関のインターンシップに参加しました。私がこのインターシップに参加した理由は公務員志望であるということが大きな理由です。また、長崎大学で行われた合同説明会で税関職員に興味を持ち実際の職場の雰囲気や職務を知りたいと思い参加しました。

今回のインターシップでは主に長崎財務事務所で 3 日間､長崎税関で 2 日間研修を行いました。ほかにも、長崎税務署や日本銀行長崎支店も訪問しました。まず、長崎財務事務所では福岡財務支局の業務説明や国有地の実地調査､貸付審査など実務に近いことを体験することができました。また、職員の方とのフリートークの時間もあり仕事についてや公務員試験についてなど様々なことを聞くことができました。さらに記者レクを体験させていただきました。実際に長崎財務事務所の方と記者の方がやり取りされるのを見てメモの取り方を学びました。やり取りを聞きながらメモを取るのは難しく、職員の方が作成されたメモと比較すると重要なことを簡潔にわかりやすくまとめることが大切だということを学びました。

長崎税関では、移動式 X 線検査デモや麻薬探知犬を使った取り締まり、旅具検査などを体験することができました。旅具検査では実際に怪しい人の荷物を検査し、薬物がどこに隠されているかを楽しく探すことができました。会話や行動に怪しい点はないかなど注意する点が多く少し難しいと感じました。また、松ヶ枝ターミナルも見学することができ普段は見ることができない部分を見学することができました。業務説明では各部門の方が丁寧に説明してくださりどのような仕事をしているのかのイメージがつきました。また、職員の方がどんな疑問にも答えてくださり税関業務に対しての知識が深まったと思います。特に印象に残っている業務は監視部で、麻薬や違法薬物の国内への侵入を防ぎ、日本の安全を守っていると感じました。また、日本銀行長崎支店では、2024 年 7 月から発行開始予定の新貨幣を実際に見ることができました。紙幣の偽造防止技術や支店内の見学ができ、貴重な経験をさせていただきました。

今回の研修を通して、資料で見るだけではわからないことを知ることができたと思います。今まで視野に入れてこなかった職種にも興味を持つことができ将来の選択肢を広げることができたと思います。また、人にわかりやすく伝える力が必要だということを今回強く学びました。私自身にはこのわかりやすく伝える力が未熟だということに気付けたことは大きな収穫だと思います。今後の大学生活で向上させていこうと思います。

これから公務員試験に向けて勉強が忙しくなると思います。しかし、今回インターンシップに参加したことで試験や将来に対する不安を減らすことができ、公務員の仕事により魅力を感じました。私はこのインターンシップに参加して本当に良かったと思います。この機会を設けてくださったすべての人に感謝しています。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

【ひぐちグループ】

私は、9 月 1 日（金)、4 日（月）～8 日（金)、11 日（月)、12 日（火）の 8 日間、ひぐちグループのインターンシップに参加した。私が今回このインターンシップに参加した理由は、私は現在大学のゼミでマーケティングについて学んでおり、将来も広告業界での就職を希望しているからだ。ひぐちグループのインターンシップではグループワークで、広報・企画の体験ができる。そのため、その職種が自分に合っているのか確認したいのと、広報・企画はどういった内容をするのか知りたいと思い、今回ひぐちグループのインターンシップに参加を希望した。

今回のインターンシップの内容としては、ひぐちグループが展開しているカフェの集客を目的とし、それを達成するためのイベントをインターンシップ参加者で考えるというものだった。それをするにあたり、初日にマーケティングの基礎について学んでいった。そこではマーケティングの専門的な言葉や、アイデア出しの手法を学んだ。そして 2～4 日目は、カフェの STP 分析と、ターゲットの決定、ペルソナの作成を行った。5～7 日目は、ペルソナをもとにファンクショナルアプローチを行った後、実際にイベントのアイデア出しを行っていった。最終日は、グループでアイデアを一つに絞り、最終発表を行った。最終発表では、グループごとにプレゼンを作り、社員さんの前で発表を行った。

今回のインターンシップを通してまず、STP 分析において私はゼミで行ったことがあったため、内容ややり方は理解することができた。しかし、行ったことがないカフェの STP 分析を行わないといけず、すべて想像で考えるのはとても難しかった。そして、ペルソナにおいては名前すら聞いたことがなく、初めての経験だった。ペルソナはターゲットに合った人物を自分たちで作り上げるもので、答えがなく、すべて自分たちで想像して作らないといけず、とても苦戦した。アイデア出しではただ出せばいいというわけではなく、目的に合ったアイデアを出さないといけないため、そこを意識しながら出すのが想像以上に難しかった。最終発表では、内容として考えたアイデアの概要だけでなく、見込まれる収益も考えないといけず、そこが一番難しかった。また、社員さんの前での発表は、実際に会社で行われていることを体験でき、とても良い経験になった。

今回、グループワークがメインだったため、協力することの大切さをとても実感することができた。一人ではよいアイデアは出なくて、みんなでアイデアを出し合い、そこからさらに良いアイデアを出したり、良いアイデア同士を結合させたりして一つのアイデアを作り上げていくことを知ることができた。そして今回、実際にひぐちグループさんが行っているイベント企画の一連の作業を体験することができてとても良い経験になった。インターンシップで学んだことを活かして、今後グループ活動の機会があった際には協力することを意識しながら、積極的にグループを引っ張っていける役割になっていきたい。

【学校法人　鎮西学院】

私は 9 月 12 日～9 月 16 日の 5 日間、諫早市の学校法人鎮西学院様にお世話になり、インターンシップを体験させていただきました。大学生が普段どのように学生生活を支えてもらっているのかについて知ることを目的とし、さまざまな課で多くの業務を体験することで、就職活動に向けて「仕事」のイメージを具体化することを目標に、今回のインターンシップに励みました。

私は学校の事務職員と聞くと、校舎の玄関付近にある部屋でパソコンと向き合いながら、訪れる学生や電話の対応を行っているイメージでした。しかし、学校のロッカーに荷物がないか点検したり、留学生の住まいを清掃したり、掲示板の整理や備品の移動作業をしたりなど、今まで事務の方々がしてくださっているとは思いもしなかった業務がたくさんあることを知りました。また図書館では、どのようなジャンルの本を飾り、どうレイアウトすれば学生が立ち止まり借りてくれるかということを考えながら展示コーナーを作成したり、貸出冊数の上昇を目的にイベントやグッズの案を練り、意見交換を重ねたりしました。

このように、図書館に限らず私たちの知らないところで、学生生活が豊かになるように尽力してくださっている方々がたくさんいらっしゃるということを再確認できました。

最終日には、オープンキャンパスを経験させていただき、資料やグッズの袋詰め、清掃、設営などの準備に携わり、当日に高校生を迎え、楽しんでいただけたことに達成感を感じました。私は前日からの準備でしたが、それよりももっと前からこのオープンキャンパスに向けて多くの人が動いていることを知り、また当日は学生スタッフを含めて全員で高校生をおもてなしするという体験ができ、とてもやりがいを感じました。私は高校生の方々に、鎮西学院大学の魅力や情報をお伝えすることが難しかったので、積極的に誘導をしたり、学校が関係しない一般的な大学生に関する質問に答えたりなど、今自分にできることを考えながら行動することができました。

今回は、業務体験だけでなく就職活動や将来についてなど、たくさんのお話を聞くことができました。大学卒業後から 38 年間長崎県庁に勤められていた方に、公務員試験や学校の事務職員について細かく教えていただき、貴重な時間を過ごすことができました。さらに、自分が楽しいと思えることでないと仕事は長続きしないため、就職活動をする上で意識しておいた方がいいというアドバイスをいただきました。また、思っていた仕事と違ったり、理不尽な態度をとられたりする中でも、自分で楽しさを見出していくことが大切だと教わりました。

最後に、これからの課題として 2 つのことを考えました。1 つ目は、生活リズムを崩さないことです。大学生になってから早起きをする機会があまりなかったため、この 5 日間の早起きがとても苦痛に感じました。ここで戻った生活リズムを崩さないように、早寝早起きを続けたいです。2 つ目は自己分析をすることです。5 日間を通していろいろな方々の話を聞き、多くの業務を体験する中で、まだまだ自己分析が足りず、自分のことをわかっているつもりになっているなと感じたので、もっと自分を見つめなおし、自分と向き合う時間を作ろうと思いました。

今回、母校に携わることができて改めて魅力を感じましたし、何より社会人として貢献することができてとても嬉しかったです。たくさんのアドバイスをいただき、背中を押してもらったので、これから自分の人生を豊かにできるように活かしていきたいです。

【株式会社　イシマル】

私は、8 月 21 日（月）から 8 月 25 日（金）の 5 日間、株式会社イシマル様でインターンシップに参加させていただきました。当インターンシップを志望した理由は、プログラム内容の「営業同行体験」に興味を持ったからです。私は決して人前で話をすることが得意ではなく、営業職に対しても苦手意識がありました。ですが就職活動を進めていく中で営業職の募集が全体的に多いことに気が付き、一度営業職について詳しく学んでみてから決めるべきではないかと感じ今回志望させていただきました。

1 日目と 2 日目は、株式会社イシマル様の会社概要や営業職についての座学、ビジネスマナー講習などがありました。特に印象的だったのはビジネスマナー講習で、その中でも名刺交換の練習が記憶に残っています。3 日目と 4 日目に営業同行があるということで、名刺交換の練習にはかなりの時間を取っていただきました。普通に大学生活を送っているだけでは名刺を交換するようなことはほとんどありませんし、社会人が名刺交換をする様子を間近で見たこともなかったのでここで学ばせていただけたことで安心して営業同行に臨むことができました。

3 日目と 4 日目は、今回のインターンシップで最も重要となる営業同行体験でした。3 日目は私と同じ長崎大学経済学部出身の女性営業マンの方に同行させていただきました。女性ならではの視点で様々なお話を伺い、育児休業についてなど実際にイシマル様で働くとしたらどうなのか、という具体的な相談までさせていただきました。4 日目は午前と午後で別の営業マンの方に同行させていただきました。3 日目と 4 日目に営業同行をさせていただいた中で感じたのは、営業に正解はなく、それぞれのやり方で営業活動をしているということです。当たり前のことかもしれませんが、「営業マン＝話し上手・聞き上手」だと思っていた私は、それだけではないということにとても驚きました。とてもお話が上手で雑談から上手く営業トークに入っていく人もいれば、決して賑やかに雑談をするわけではないけれどお客様からの相談にすぐ提案を出せる人など、各々のやり方で営業をしているのだと学びました。

5 日目は、営業同行の報告会を行いました。他のインターンシップ生の体験を聞いた際に、改めて営業方法は 1 つではないということを実感しました。

今回のインターンシップを通じて、営業職への苦手意識がかなり薄くなりました。私が同行させていただいた営業マンの方は、お話が上手いのはもちろんですがそれ以上にしっかりとお話を聴く、ということを意識していたように思います。私は面白い話をして盛り上げるのは得意ではありませんが、相手の話をしっかり聞いて質問をするのはかなり得意です。営業マンに求められるのは話す能力ではなく相手のことを理解する能力なのだと今回のインターンシップを通じて学びましたので、営業職は無理だと勝手に諦めず、今後は営業職も視野に就職活動を進めていきたいと思います。

【株式会社　長崎銀行】

私は８月１４日から１８日まで株式会社長崎銀行のインターンシップに参加しました。以下ではそのインターンシップで学んだことを書きたいと思います。
１日目は午後から始まり、自己紹介を行った後に長崎銀行の歴史について説明を受けました。長崎銀行は戦前から現在の場所に本店を構えており、長い歴史をもつ会社であることを学びました。その後は札勘の練習と電卓の早打ち練習を行いました。札勘には縦読みと横読みがあり縦読みのほうが難しく、行員さんに教えてもらいながら練習しました。
２日目はビジネスマナーについての講義がありました。長崎銀行はマナー研修がしっかりと行われている歴史ある銀行であり、長い間長崎を支え続けている企業であることをあらためて実感しました。自分自身ビジネスマナーについて勉強不足であるので非常にためになりました。
３日目は銀行の固有業務である窓口業務や、融資業務について詳しく教わりました。時代や環境の変化に応じて、行員の業務の簡易化だけではなく、お客様にも分かりやすく手間を取らせないように工夫されていることが分かりました。各種手続きを行ってもらうためにタブレットが活用されており、様々な工夫が施されていることに感動し長崎銀行がお客様との対話を大切にしている姿勢がよく分かりました。また、融資業務についてはロールプレイを交えての講義で、この業務の難しさとやりがいを肌で感じることができました。
４日目は営業店の見学をさせていただきました。行員の方々が実際に働いている姿を見て、働くことについて改めて考えるきっかけになりました。また、銀行の三大業務である預金・為替・融資以外の銀行業務について本部の各部署の方々から詳しく説明があり、銀行業務は多岐にわたることが分かり、銀行業務へのイメージが少し変わりました。入行２年目、入行５年目の先輩方との交流の時間も設けていただき、実際に働いてみての感想など生の声を聴くことができ、インターンシップに参加して良かったと感じました。
５日目は人事部の方との座談会がありました。普段関わることのない採用する側の方の意見を聞くことができとてもいい経験になりました。エントリーシートの書き方から、面接で良く聞かれる質問とそれに対する適切な答えまで隠すことなく教えてくださりました。私はあまり真剣にエントリーシートや面接について考えていなかったので、教えてくださったことを全て生かして就職活動に取り組んでいきたいと思いました。
今回のインターンシップでは銀行業務について詳しく知ることだけではなく、社会人として身に着けるべきことなど人間的にも成長することができたと思います。５日間で学んだことを生かして、後悔のない就職活動を行っていきたいです。

【厚生労働省 長崎労働局】

インターンの期間は、2023 年 8 月 28 日から 9 月 1 日までであり、その間に厚生労働省長崎労働局での業務経験を得ました。このインターンに参加した理由としては、近年のコロナウイルスの影響による失業や働き方の変化に関連するニュースを頻繁に目にし、働く環境の改善や失業者支援に関心を抱いたからです。また、厚生労働省長崎労働局のウェブサイトやパンフレットを通じて、業務内容や取り組みにも興味を持ち、このインターンに参加する決意を強めました。

インターンを通して得た学びは、大まかに各部署・各課における業務内容、個人情報漏洩対策とその対応、会計作業の厳密さと全ての作業において効率化することの重要性、労働保険の概要と保険料未納者に対する対応、そして雇用環境均等室での労働者支援についての取り組みなどです。この他には、インターン期間が偶然重なっていたことから、「特定最低賃金引上げの審議」や「長崎労働局局長による記者会見」に参加することができ、非常に貴重な体験をさせていただきました。特定最低賃金引上げの審議では、実際に労働者の代表・労働組合の方々と委員会の方々の間に立って、労働局員の人が審議を進行しており、こういった仕事も労働局の業務内容に含まれるのだということを初めて知りました。局長会見では、局長を含めた幹部の方々が取材人の前に立って長崎が抱える雇用問題やそれに対する労働局の取り組みを説明し、その説明に対する質問に戸惑うことなく答えられていたのを見て、労働局で働くすべての人に尊敬の念を抱きました。

この 5 日間のインターンで、自身が取った行動の良い点と反省点は 1 つずつあります。良い点としては、実習を通してたくさんの労働局員の方と自らコミュニケーションを取ったことです。その結果、業務以外の公務員の部署移動についてや公務員宿舎の利便性、部署が異なるハローワークの窓口業務内容及び心掛ける点について学ぶことができました。反省点としては、自身に知識があまり備わっていなかったばかりに、何度も質問を投げかけてしまったことです。これにより、職員の方々の時間配分を狂わせてしまうことになりました。

インターンシップ初日は、右も左もわからず、緊張のあまり失礼な態度を取ってしまいとても心配でしたが、最終日ではこのインターンシップに参加できたことが今後の人生に大きくつながると確信でき、本当に充実した毎日だったと心の底から思うことができました。また、この 5 日間のインターンシップを終えて、労働局の業務内容に対する興味がさらに深まり、職員への憧れの気持ちが大きくなりました。この 5 日間で学んだことを、今後の人生で活かせるよう精進していきたいです。

【時津町役場】

私は 8 月 21 日から 25 日までの 5 日間、時津町役場でインターンシップ研修をさせていただきました。私がこのインターンシップに応募した理由は、将来公務員を志望している私にとって公務員の仕事を体験できる機会は滅多にないと思い、業務内容や職場の雰囲気を実際に自分の目で見てみたかったからです。さらに言えば、私は高校生の頃から時津町役場で働くことを目標としており、高校 2 年生のときにもインターンシップで時津町役場に行かせていただいたのですが、そのときは「職場体験」という感覚でした。しかし今回は採用試験が来年に控えているということもあり、自分が時津町役場の職員として働くことを想像しながら職員の方々と同じ目線で業務を体験したいと思い、時津町役場を希望いたしました。

私は今回会計課にお世話になり、様々な業務を経験させていただきました。主な業務としては、支払業務や伝票審査、収納業務などです。支払業務は当日支払いの納付書の計算や小切手の作成、領収書の添付作業を行ったのですが、特に緊張したのが小切手の作成でした。私が作成させていただいた小切手の中には日常生活で見ることのない単位のものもあり、この 1 枚で町の財政が動いていると考えると、会計課が担っている役割と責任の大きさを実感しました。伝票審査では翌日以降に支出される予定の支出伝票の不備がないかを確認させていただきました。普段は課長が担当されている大変重要な業務ということもあり、ミスを見逃さないよう念入りにかつ注意深く確認することを心掛けていました。

収納業務は日締処理として、町民の方々が窓口で支払われた水道料金や各種税金などの納付書を計算・確認する作業でした。計算の際には普段私達が使用する電卓ではなく、計算した件数も表示される加算器で計算していたのですが、使い慣れていないことに加えて、特に水道料金の納付書が取り扱いにくいため数え間違えることも多く、計算がなかなか合わなかったのですが、日を重ねるごとに計算が合うようになっていったことに嬉しさと達成感を感じました。

私は今回のインターンシップを通して、特に「コミュニケーションの大切さ」を学びました。インターンシップ前は会計課に対して、ひたすら書類と向き合ってひたすら計算しているというイメージがありました。しかし実際はそうではなく、当然緊張感はありつつも、課内だけではなく様々な課の職員との会話が飛び交っていることで雰囲気は明るく感じられました。そのおかげで初日に感じていた不安はすぐになくなり、最終日にはできることならずっとここにいたいと思えるほどでした。窓口で支払いを終えられた多くの町民の方々がありがとうと言っていたことが印象的で、それは会計課の雰囲気が町民の方々に対する接し方にも表れているからだと感じました。また、分からないことがあればすぐに聞くこともコミュニケーションの大切さを知るきっかけとなりました。1 つのミスが後に重大な問題につながってしまうため、分からないことがあれば自分 1 人で判断せず、他の人とコミュニケーションをとって共有することが大切だと感じました。

今回のインターンシップを通して、町民の方々と誠実に向き合い、町全体を支えている時津町役場で働きたいという思いが一層強くなりました。時津町役場で皆様と一緒に町や町民の方々に貢献できるよう、今回の経験を糧にして公務員の勉強に精進してまいります。今回受け入れてくださった時津町役場の皆様に心より感謝申し上げます。

【税理士法人　石井会計事務所】

私は、今回税理士法人石井会計事務所さんで５日間のインターンシップに参加しました。

初日は、所長や社員の方達から会社のホームページをもとに会社の特徴や業務内容についての説明、担当する社員の紹介等がありました。午前中から実際の業務を体験させていただき、実際の顧問先の会社の記録と資料の金額が正しいか確認したり、仕訳の科目と番号をハンコで押し、分かりやすく記録したりという作業を行いました。慣れない資料やたくさんの数字に困惑しながらもなんとか資料作成の下準備を終えることができました。

２日目には、初日に作成した資料や仕訳を実際にデータとして入力する作業を行いました。準備の段階で分かりやすく記入する作業をしていたため、実際に入力する時間が削減されており、下準備の大切さを実感しました。

３日目には、仕訳帳の課税区分が課税、非課税、不課税に当てはまるか記入し、課税取引であれば軽減税率かそうではないかを実際のパーセンテージを記入する作業を行いました。たくさんの量の仕訳が書かれており、その文字が略されているものもあったため、解読するのに時間を要しました。

４日目には、税額の計算をパソコンのソフトに記入したり、実際の企業の例を見せていただいたり、自分の知らなかった知識が得られ勉強になりました。午後からはまた別の人の指導の下に、１．２日目に行った法人決算報告書の作成を会社で取り扱っている別のソフトで行いました。記録の取り方が会社ごとに全く異なっており、苦戦しましたが、何とか作業を進めていきました。

最終日には、４日目のデータを完全に記入してしまう作業を行いました。そして報告書の金額が与えられた資料と正しいかどうかを確認して一通りの作業が終了しました。午後には、入社３年以内の方との座談会があり、入った経緯であったり、仕事のやりがい、将来の目指す姿であったりを聞くことができて、良い先輩がいる環境であることが体感できました。

全体を通しての感想として、税理士法人としての大まかな仕事内容とその流れ、目的を学ぶことができました。膨大な資料から該当する情報を見つけて正しいか判断し、報告書を作成することは多くの知識が必要であり、大変なお仕事だと感じました。今後この体験した経験を、簿記等資格勉強へのモチベーションへと繋げるとともに、職業選択の一つの判断基準としてしっかり記憶したいです。

【大村市役所】

私は、２０２３年8月8日～8月10日、8月21日～8月22日の5日間、大村市役所のインターンシップに参加し環境保全課、企画政策課、商工振興課での業務に従事しました。

どの課でも社員の方々は右も左もわからないインターン生の私に丁寧に指導してくださり、時には気さくに声をかけてくれ、私が理解できるまで何度も説明してくださいました。そのため、初めての業務ばかりでしたが、安心して業務に取り組むことができました。

以下では、3 つの課のうちの環境保全課を抜粋し、業務に従事した感想や業務内容に関する気づきを述べて、IS レポートとさせていただきます。１日目の環境保全課では、水質調査を目的とした鈴田川のリバーウォッチングや台風防災のためのペット同行避難所の設営など、幅広い業務を担当しました。

【リバーウォッチング】

川の水質調査では、子どもたちが楽しみながら生き物に触れ合うチーム対抗のゲームだったことが非常に良かったと感じました。川の生物を調べることで、その川がきれいなのかどうかが分かるということを実際に捕まえて、観察して発見できるので子供たちの勉強にもなるし、川を今後汚さないためにどうしたらよいかを考えるきっかけ作りにもなると感じました。

また、学生でイベントを開催した際に必ず問題となるのはアンケート無回答者が多いことなのですが、今回は採点チェック後に各チーム必ず記入するようにあらかじめ指定していたため、記入漏れがなく回答率１００％だったことに驚きました。表彰式後は参加者もすぐに帰ってしまったり、アンケート自体を忘れてしまったりすることがあるため、今回でいうとイベントの要であった水生生物調査後に記入してもらうように、記入と回収の時間帯を工夫することが大事だと気づきました。

【避難所の設営】

避難所の設営では、設営で必要なもの、設営手順など多くのことを学ぶことができました。私の地域では、台風による影響や大雨の影響が比較的小さく、避難所で一夜を明かした経験がこれまでなく、正直避難所そのものについて知らないことが多く、新たな知見を得る機会をいただけて非常に有意義な時間となりました。ブルーシートを敷くだけでは、背中が痛くなるのでマットを先に敷いておくことだったり、ペットのトイレの設置や、ゲージの大きさ・重量・種類、受付のデスクなど避難所に必要なものを実際に配置したりして、カメラで写真に収めることで避難所設営の流れもおさえることができました。

【さいごに】

このインターンシップを通して、改めてオフィス内の作業だけでなく、実際に足を運んで実務的な作業の重要性も学ぶとともに、これまで当たり前に存在していると思っていた避難所の設営や旗の撤去など、市の職員の方々が一生懸命してくださっていたことのありがたみを感じました。また、就職する前の大学三年生の夏に、リアルな現場でのフィードバックを受け、スキルアップすることができる貴重な経験を得ることができました。今後は、この貴重な経験を生かし、自分自身の成長と将来の勤務先での貢献に繋がるよう、日々精進していきたいと思います。お忙しい中、インターンシップ生の私を受け入れてくださり誠にありがとうございました。

【長崎県 総務部 税務課】

私は、今回のインターンシップ研修を長崎県庁の総務部税務課で 8 月 16 日から 8 月 22 日までの 5 日間させていただきました。私がインターンシップ研修において長崎県庁を志望した理由として、将来の就職先の候補として公務員を考えていたため実際に職員の方々が働いている雰囲気や業務内容について実際に体験することでより理解を深めて将来の働くイメージを想像ができるようになりたいと思ったからです。

今回のインターンシップ研修において総務部税務課では、長崎県内における税金の管理や徴収、報告などを行っており業務内容は多岐に渡って存在しています。今回は税務課の中でも特にふるさと納税課の方でお世話になりました。

1 日目は同じ日程で長崎県庁のインターンシップに参加する全員合同でオリエンテーションが行われました。100 年に一度の変革期が訪れている長崎県の将来設計や県庁、県職員の概要についてのお話がありました。また、SDG s の事象を用いたグループワークや県職員との意見交換などを通じて住んでいて気付かなかった長崎県の事や公務員のワークライフバランスについて多くの事を知ることが出来ました。また同じインターン生との意見交換など貴重な体験を行えました。

2 日目は、実際に税務課に配属されて税務課でのオリエンテーションが行われた後長崎県の地方税である県税の仕組みについての講義が行われました。地方消費税という現在の消費税である 10%の内 2.2%は地方の税収となることを初めて知ることが出来ました。また、今年入庁された職員との懇親会が行われ実際の仕事内容についてより深く税の内容について知ることが出来ました。

3 日目は、職員の方々の事務補助を行い納税に関した資料の郵送配達や文書作成といった事務作業を行いました。実際に各機関の元へ送付する作業であったため 1 つ 1 つ丁寧に業務を遂行する重要性を感じることが出来ました。

4 日目は、午前中長崎振興局の方で本格的な業務の対応をさせて頂きました。私は、第一課税部門第一班の方で不動産の課税に関する仕組みについて学んだ後、実際に新築の建物に対する課税対象かどうかの視察に同行させて頂きました。建物が項目に記載されている使用用途に沿っているかどうかや非課税対象になるかなど普段では知ることのできないことについて視察を通じて学ぶことが多かったです。午後からは、県庁に帰還し事務作業の補助と実際の機関に対して実務的な電話対応をさせてもらった。社会人としてのマナーを学ぶことが出来ました。

5 日目は、午前中に事務作業の補助や文書の仕様書作成を行った後に午後からは長崎税関の方で見学や実際に働いている職員と国家公務員の試験の仕組みや税関の歴史について学ぶことが出来ました。そして、最後に初日から与えられていた課題型ワークとして JAL のポータルサイトに載る長崎の魅力に関する文書の原稿を職員の前で発表を行いフィードバックなどを頂いた。実際に働いている方々のコメントは貴重でより深く業務を行えることが出来たと考えています。

今回の 5 日間のインターンシップを通して、公務員という仕事のイメージが大いに変わったと思います。多くの貴重な体験をさせて頂き自分が社会人になる上で必要なスキルなどを理解することが出来ました。また、多くの人と関わらせていただき温かい言葉などをかけて頂き大変お世話になりました。このことを通して今後の学生生活に繋げて行きたいと思います。

【長崎県 地域振興部 地域づくり推進課】

私は、8 月 23 日（水）から 8 月 29 日(火)までの 5 日間、長崎県庁の地域づくり推進課のインターンシップに参加しました。私がインターンシップに参加した理由として、私自身が公務員志望であることが挙げられます。特に県職員として働きたいと強く志望しており、県職員の方々がどのような仕事をしているのか興味を持っていました。インターンシップでは、自分自身で目標を設定し、目的をもって参加することができました。

まず 1 日目は全体のオリエンテーションを行い、2 日目から地域づくり推進課に配属され、地域づくり推進課がどのような取り組みを行っているのかの説明を受けたり、実際に見学に訪れたりしました。長崎県では、離島や半島地域が多く、そこでの人口減少の問題や、働く場所の創出、関係人口を増やすための取り組みなどについて様々な説明を受けたり、実際に地域づくり推進課の情報発信などを行ったり、説明とワークを通じて、地域づくり推進課がどのような取り組みを行っているのか知ることができました。また、長崎ではワーケーションを推進しており、その中でもコワーキング施設を実際に訪れ、経営に携わっている方のお話を聞くことができました。また、普段緊張してあまり質問を行うことに躊躇することが多くありましたが、今回のインターンシップでは、自分自身の成長につなげるために気になったことは質問し、理解深めようと努力することができました。

今回のインターンシップを通して、さらに県職員になりたいという気持ちが強まりました。休憩時間や空いた時間には、県職員の方々が気さくに話してくださり、普段の生活や仕事をしている中でのやりがいなどのお話を聞くことができ、本当に有意義なインターンシップにすることができました。

また、研修最終日には、実際に県職員の方々に学んだことや学生ならではの地域課題の解決策をプレゼンしました。資料作成の際には、同じインターンシップ生と協力し、見やすい資料作成を意識しながら行いました。緊張しながらも無事プレゼンを終えることができましたが、県職員の方からさらに見やすい資料作りについてのアドバイスをいただくこともできました。このインターンシップを経験して自分自身の成長に間違いなくつなげることができました。

最後に、今回のインターンシップは、様々な方の協力の下で行うことができました。感謝の気持ちを持ちつつ、これからの大学生活を送りたいと考えています。また、今回の経験を通して自分自身も県職員となれるよう、これから勉学に励んでいきたいと思います。

【長崎県 産業労働部】

私は、８月３０日から９月５日までの平日 5 日間長崎県庁産業労働部でのインターンシップに参加しました。長崎県庁はもともと興味があり、様々な部署がある中で自分が所属する学部と関連し、また一番個人的に一番どのような業務をしているか想像がわかないという観点で産業労働部を希望しました。

平日５日間を通して、産業政策課・企業振興課・新産業創造課・雇用労働政策課・経営支援課それぞれ研修や施設等の視察を行いました。研修は長崎県の強み・現状抱える課題も踏まえながら説明をしてくれました。私が県外出身で長崎についてあまり知らなかったため、それぞれの活動内容と同時に長崎県についても詳しく学ぶことができました。

２日目の産業政策課での研修では、公務員、長崎県庁の概要説明、誘致企業の視察を行いました。その日の 1 番最後では半導体についての県職員向けのセミナーにも特別に参加する機会がありました。半導体セミナーでは、そもそも半導体についての概要、そして長崎県が力を入れて取り組んでいる 1 つであることを知ることができました。

３日目、4 日目では新産業創造課と雇用労働政策課で研修を行い、CO-DEJIMA、ビジネス支援プラザ、D-FRAG、長崎海洋アカデミー、長崎高等技術専門校の視察を行いました。私自身、公務員は民間企業のように営業活動をあまりしないイメージがあった。しかし企業誘致の業務をする際かなり営業活動で県外にいる機会が多いということを知り、この 2 日間で公務員に対してのイメージが大きく変わった期間であった。特に企業誘致の営業活動では、長崎県は日本で見ると端に位置し、地理的に厳しい条件ではあるが、アジアでみると長崎県は中心に位置すると PR していると説明しているそうで、この点は自分にはない発想で興味深かったです。

最終日である５日目は経営支援課で研修を行いました。今までよく知らかった補助金制度の仕組みや経営支援の方法について詳しく学ぶことができました。これまで私は県庁内に経営に詳しい専門家が複数人いて、直接民間企業に支援を行っていると思っていたが、経営支援のアドバイスは民間に委託し、県庁は仲介の役割を担っていることを初めて知った。この５日目は自分が所属する学部とよく関連している事柄が多く、これまで研修を受けてきた課で 1 番働いてみたいと感じました。

今回のインターンシップは、長崎県庁の事前準備や職員の方のサポートのおかげで本当に充実した５日間を過ごすことができました。参加してみないと知ることのできない情報を得ることができたと思います。この経験を生かして、自分のキャリアについて深く考えようと思います。

【長崎県立長崎図書館 郷土課（長崎郷土資料センター)】

私は、9 月 4 日(月)から 9 月 8 日(金)までの 5 日間、長崎県立長崎図書館郷土資料センターでインターンを行いました。このインターンに参加した動機は、元々公務員になることを将来の目標にしていることと、小さい頃からよく利用している施設の仕事や職員の皆さんと関わってみたいと思ったからでした。

研修の 5 日間の中で、現在の公務員について、県立図書館がどのようにここまでたどり着いたのか、郷土センターがどのような役割を担っているのか、など様々なお話を聞くことができたことで、自分の将来について具体性を持たせることができました。今までは漠然と公務員になりたい、できるなら教育に関わりたい、と考えていましたが、今回職員の方から話を聞く中でなりたい職が決まりました。

そして、この郷土センターは長崎の資料の保存を主の目的としていて、図書館としての本の貸し借りなどの業務は大村にあるミライ on 図書館が大きな役割を果たしているのだそうです。実際に書庫にいれていただきましたたが、膨大な資料を大切に保管されているのが伝わりました。最終日には何冊かの資料をその書庫に番号通り並べる作業も経験させていただきましたが、思っていたよりも手間取ってしまって、「見る・理解すること」と「実際に行動すること」の乖離を思い知りました。資料を探しやすくするのもレファレンスに役立たせるため、資料がある場所を分かりやすくすることで管理をしやすくするためです。実習 3 日目と 4 日目に私もレファレンスの一部を経験しましたが、昔の資料を細かいところまで見逃さないようにチェックするのは時間を要しました。職員のみなさんがこんな風に相談者の疑問や要望に応えられるようにと時間をかけて作業をしていらっしゃるのだと思うと、大変な仕事だと痛感すると同時に、自分にもし疑問が生まれた場合にはぜひレファレンスをお願いしたいな、とも思いました。

インターンが始まる前は緊張と不安で体が強張っていた私ですが、実際に職員の皆さんと関わり、業務を経験していく中でいい意味で肩の力が抜け、快適な環境で実習を終えることができました。長崎の郷土資料を残そうと頑張ってきた人がいて、それをさらに引き継いでいる人がいる。それが身をもって分かっただけでもこのインターンに行けた理由であったように思います。このインターンで明確になった自分の将来の目標に向かって全力でぶつかっていきたいと思います。

【長崎県 教育庁 教職員課】

私は、８月１６日から８月２２日までの５日間、長崎県庁の教職員課のインターンシップに参加しました。私がこのインターンシップに参加した理由としては、教育事務の仕事内容を知ることでした。また、普段あまり目にすることのない県庁はどういった雰囲気の職場なのかを感じ取ることも参加した理由の一つである。５日間のインターン全体を振り返っての印象としては、学校事務の仕事は予想していたよりも多岐にわたるということです。

１日目は、他の課の参加者と合同で県庁舎の見学や実際に県庁職員として働かれている方との座談会が行われました。私は教職員課への参加でしたが、初日に他の課の参加者と合同だったことで、長崎県庁には様々な課があることを知ることができました。また、職場の環境としても県庁舎が比較的新しいのもあり、快適に過ごすことができると感じました。座談会では、実際の職員の声を聞くことができ、貴重な経験となりました。

２日目から各課に分かれての研修が始まりました。２日目は、教育事務の業務内容と教育委員会の定例会議の傍聴を行いました。業務内容の説明では、教育事務として採用された場合に約半数が小学校に配属されると聞き、その割合の多さに驚きました。また、教育事務というと学校で勤務するイメージがあったが、それだけではなく県庁の中で働くことができることを知った。県立の学校を担当するのか、市立の学校を担当するのかによって事務のやり方が異なることを学んだが、このことを今の早い段階で知ることができて勉強になった。また、教育委員会の会議を実際に目にすることで長崎の教育の最先端が生み出されていく雰囲気を味わうことができました。

研修３日目と４日目で県立学校等の見学を行いました。３日目では、農業高校と工業高校に行き、どちらも普通科の高校とは全く違う雰囲気を感じたが、それぞれの専門課程で使用する道具や建物の管理も行うことから、やりがいのある職場だと感じました。３日目の研修に参加するまでは、学校の事務は各学校に１人というイメージがあったが、見学にいた学校では複数人で事務を担当しており、かつそれぞれで役割を分担していたことがとても印象に残っています。また、納期を時期に繰り越してはいけないため、計画性を持って業務を遂行する能力が必要になることを学びました。４日目では、県立図書館と特別支援学校に見学に行きました。図書館や特別支援学校での業務は３日目に見学した学校以上に予想がつかなかったが、運営の裏側や生徒第一の環境作りを徹底しており、さらに業務の幅が広いと感じました。

５日目には、長崎県の教育に貢献できることをプレゼンテーションしました。班全員が１人ずつ行ったが、それぞれ違った視点での発表が行われ、貢献にも様々な形があると気付かされました。

５日間のインターンシップを経て、教育事務の業務内容について知るとても貴重な機会となりました。この経験を今後の就職活動に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

【長崎市 市民生活部 人権男女共同参画室】

私は７日間、長崎市市民生活部人権男女共同参画室でインターンシップ研修に参加させていただきました。公務員志望である私は、市民の模範たる行政職が男女共同参画社会実現のために実際にどのような取り組みを行っているのかを知りたいというのが志望理由でした。

研修の内容としては、まず業務内容の説明があり、その後は職員の方の実際の仕事を私に割り振ってもらう形で、リアルな職業体験をさせていただきました。市長表敬や企業表彰選考会、研究会など、デスクワーク以外の業務に積極的に同行させていただき貴重な体験をすることができました。

選考会の議事録をとる際には、質疑応答の内容が理解できず、言語化できないことから自身の知識不足と事前の準備不足を痛感しました。市長表敬では、１５分という短い時間のためにたくさんの資料が準備され、定刻より早く応接室に行き、準備、待機し、１分の遅延も許さない時間管理で、市長をはじめとする皆様の多忙さと、大学生と社会人の時間に対する感覚のズレ想定以上に感じました。

アマランス相談という市民向けの電話相談窓口に１本の電話がかかってきました。室内が一気にあわただしくなり、各自が行っていた業務を一時中断し、各方面へ電話したり、職員同士で話したりする姿に、市民１人ひとりの相談に真摯に向き合う姿を見ることができました。確固たるプライドを持って人権保護、男女共同参画のために勤めている職員の方の姿に胸が熱くなりました。また、相談内容の深刻さや、他の日にもたくさん電話が鳴っていたことから、アマランス相談が広く市民に周知されていることと、確実に市民のよりどころになっていることを感じました。

デスクワーク業務の中でもリーフレットのテーマ案作成が非常に難航しました。トピックスの選定において、現在の流行をとらえたもの、世間の関心が高いもの、長崎市民にとって身近なもの、とっつきやすいものなど、様々な要素を持ち合わせたものを考えるのに時間を要しました。ポスター案の作成では、配色に頭を抱えました。背景の色１つで宗教の信仰心のようなものを感じたり、女性向けの講演会のように感じたり、実際の講演会をイメージさせることや、こちらのターゲットの目に留まる色味にすることが難しかったです。

人権男女共同参画室は大変和やかな職場で、室を出ていく際、戻ってきた際の声かけの感じや、時折聞こえてくるたわいもない話、お昼休みの会話など、聞いている私の口角が自然と上がっていることが何度もあり、職員の方々の精神的な距離が心地よく感じました。初日こそとても緊張していましたが、和やかな雰囲気のおかげもあって２日目以降は精神的な疲れもぐんと減り、業務の進み具合も良くなりました。所属内のコミュニケーションが業務を円滑に進めていると感じました。

人権保護、男女共同参画について考えが深まり、行政のワークライフバランス、業務や雰囲気の実態を知ることができる大変有意義な７日間を過ごすことができました。

【長崎市 環境部】

私は 8 月 21 日から 8 月 29 日までの七日間、長崎市役所環境部環境政策課にて実習を受けた。実習先として環境部を選んだ動機としては 2 点ある。一点目は小学校の時のごみ処理施設見学を機に、環境整備を通して市民を陰ながら支える市職員に関心を抱き、具体的にどのような業務を行っているのかが気になったためだ。二点目は自身の本職に対する適正及び不足している能力を見極め、将来的な進路設計の足掛かりにするためである。

実習では環境政策課での業務を中心に、廃棄物対策課、環境整備課など環境部内の他の課についても様々な業務を体験させていただいた。以下では、その中でも学びの多かった体験について簡単に説明していく。

まずは廃棄物対策課でのポイ捨て・喫煙禁止パトロール同行だ。この実習では、市民との距離が近い業務だからこその苦悩をこの身をもって体感することができた。一つの注意が与える影響は小さいかもしれないが、それが積み重なっていくことで、今の住みよい長崎が形作られているのだと痛感した。また、注意の仕方一つとってもどのように表現するかで感じ方が大きく変わることを実感し、相手の目線に立って物事を考えることの重要性を再確認することができた。

次は中央環境センターでのごみ収集現場視察同行だ。この実習では、ごみ収集車が通れないような場所でのごみの引き出し作業を体験した。具体的な作業としては、200 段程度ある階段を緑色のごみを積むための箱をもって上がり、ごみを積んだ後、階段を下ってごみ収集車が通れる位置まで運ぶというものだ。今回は職員さんの配慮で運ぶごみの量を減らしてもらえたが、それでも大変な仕事であるのには変わりなかった。通常は 100ー200 キロのごみを積んで運ぶらしく、業務の大変さを痛感した。普段はあまり意識しないが、こうした方々の働きがあるからこそ今の私たちの生活があるのだなと実感することができた。

最後は環境政策課での環境行動の啓発に関する YouTube の CM 撮影同行だ。この実習では、内容としては見学がメインだったが、CM 撮影の裏側という普段ではなかなかできない貴重な経験を積むことができた。また職員さんの計らいでエキストラとして参加させていただき、CM 撮影の裏側を肌感覚で感じることができた。目には見えないだけで様々な方の働きが今の社会を形作っているのだなと痛感した。

総じて言えることは、市役所の業務は非常に幅広いということだ。一つの課で完結する仕事は少なく、その多くが他の部署や民間企業との連携によって成り立っている。だからこそ連携を円滑にするための事前の根回しや職員同士のコミュニケーションの重要性を痛感した。7 日間といい短い期間ではあったが、普段の生活ではなかなかできないような貴重な体験をさせていただき、見識を深めることができた。今後は実習を通して見つかった課題を改善しつつ、その他の業務についての情報収集を行っていこうと思う。

【長崎市 出納室】

私は 8 月 16 日から 8 月 22 日までの 5 日間、長崎市出納室のインターンシップに参加しました。今回インターンシップに参加した理由は、主に 2 つあります。1 つ目は、公務員を志望しているため、市役所の方がどのような仕事をしているのかということを、実際に業務を体験してみて知りたいと考えたからです。2 つ目は、実際に仕事を経験し、社会人として求められるスキルや力を知り、今後に生かしたいと考えたからです。出納室は出納係と審査係の 2 つに分かれており、出納係では 16 日から 18 日までの 3 日間、審査係では 19 日、20 日の 2 日間、業務を体験させていただきました。

実際に仕事をしてみて、出納係の仕事の重大さなどを知ることができました。支出の審査や精算などの業務をしてみて、金額等に不備が絶対あってはいけないため、慎重にみていくことが大切だということが分かりました。初日はわからない言葉などが多かったり、業務内容も難しかったりして、わからないことが多かったのですが、仕事をしていくうちに、初日にはわからなかったことも理解できるようになったり、初日よりも仕事を効率的にすることができたりしたので良かったと思います。また、わからないときには職員の方が優しく教えてくださったので、出納室の仕事について理解を深めることができたと思います。

インターンシップに参加して、様々な業務を体験する中で、わからないことはそのままにせずその都度自分で調べたうえですぐに質問することが大切であるということを学ぶことができました。特に出納室では金額等の確認をするという重要な仕事をしています。そのため、審査や精算をする際に、わからないことをそのままにしておいたり、質問せずに承認をしてしまったりしてしまうと、後で多くの人に迷惑をかけてしまう可能性があるため、すぐに聞くことが大事だと思いました。社会人になった時にすぐに質問をし、疑問点を解決するようにすることは大切であると思うので、大学生の内から疑問点などはすぐに質問する習慣をつけていくようにしていきたいと思いました。

また、インターンシップの中で職員の方と話す機会があり、公務員試験や市役所での仕事のことについてのお話を聞きました。公務員には様々な仕事があることを知り、公務員の仕事をより深く調べ、視野を広げていきたいと思いました。また、公務員試験に合格するまで大変であるという話が印象に残りました。そのため、目標をもって、勉強に加え、面接対策も十分にして試験に臨むようにしたいと思います。

今回インターンシップに参加させていただいて、市役所の仕事内容を以前よりも知ることができました。また、また、質問した際には職員の方が優しく教えてくださり、出納室の仕事について理解を深めることができたと思います。今後、この経験生かし、就職活動を頑張っていきたいと思います。

参考資料

学期／Semester	2023年度／Academic Year　前期／First Semester	曜日・校時／Day・Period	他／Oth. 0
開講期間／Course duration	2023/04/01～2023/09/27		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20231508005751	科目番号／Course code	15080057
科目ナンバリングコード／Numbering code	ECET 31361_007_7		
授業科目名／Course title	インターンシップ☆／Internship		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	神薗　健次／Kamizono Kenji		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	神薗　健次／Kamizono Kenji		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	神薗　健次／Kamizono Kenji		
科目分類／Course Category	コース別科目，自由専門科目		
対象年次／Intended year	3	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room			
対象学生（クラス等）　/Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	k-kamiz@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	経済学部本館6階611		
担当教員TEL/Tel	095-820-6377		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時（事前にメールでアポを取ること）		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い，実社会の体験を通し，社会人となった際の心構えなどを教授することを目的とします（工場見学を主とするような研修，調査・研究そのものを目的とするような研修などは，単位として認めません）.		
授業到達目標/Course goals	経済学部HPの「受講の手引き（学部）」にある「カリキュラム・マップ」を見てください. インターンシップ☆は次のDPを授業到達目標としています. 　DP1：基礎的教養と現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけている.		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（１つ以上３つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力／Generic Competence　□倫理観／Ethics　□多様性の理解／Understanding Diversity □主体性／Autonomy　■協働性／Cooperativeness　□考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas　□国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	□A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	日録，レポート及びインタビューにより総合評価します.		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	受け入れ先企業やその業界について事前学習するとともに，インターンシップを通じて何を学びたいか，何をゴールとするか，自ら考えておくこと(計30時間）。		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	【参考URL】 長崎大学経済学部の就職支援 http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/under_g/job_info.html 先輩たちの「インターンシップ報告書」（PDF形式）を見ることができます.		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	上記、授業内容の【受講要件（履修要件）】を参照		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)			
備考（URL）/Remarks (URL)	第１回インターンシップ説明会（５月上旬予定），第２回インターンシップ事前指導（７月下旬予定），第３回インターンシップ事後指導（９月下旬予定）の実施形態は未定です．決まり次第，掲示により通知します. 派遣先企業については大学が紹介することになっているが、受講生が自ら開拓した企業・団体の場合であっても、一定の条件を満たしていれば、本講義での単位認定の対象となることがある（学生による自己開拓）。単位認定の条件など詳しくは、学務係に問い合わせること。但し、その場合であっても、「第１回 インターンシップ説明会」には必ず出席していなければならない。		

学生へのメッセージ/Message for students	社会から見ればまだ極めて未熟な大学3年生は，社会で活躍する「大人」との接触により急速に成長することができます．本当は、予定調和的なインターンシップ科目ではなく，自分で企業によるインターンシップを開拓し（ネット等で自力で探索する），他地域・他大学の大学生と切磋琢磨することを強く勧めます．この矛盾したメッセージに，本来のインターンシップというものの重要性を知ってください．
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y／N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用 ）/Name / Details of practical experience / Contents of course	

授業計画詳細／Course Schedule

回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
	【授業内容】 ●『第１回』：インターンシップ説明会（５月上旬開催予定：別途掲示により通知する。） 受講にあたっての心構え，留意点等に加え，受講者の決定に関する諸手続きの詳細について説明する。なお，当該説明会に出席していない者は，本講義を受講することができない。 ※７月開催予定のインターンシップ事前指導迄に，受講者の選考を行う。選抜方法は以下の【受講要件（履修要件）】および【選抜方法】を参照すること。 ●『第２回』：インターンシップ事前指導（７月下旬開催予定） 派遣に先立ち，当該科目の趣旨の徹底，経済学部を代表しての派遣であること等を認識させるための講義を実施する。 ●『第３回』：各派遣先企業において実習　（８月上旬～９月中旬頃） 各派遣先における実習内容をレポートにまとめ，実習の記録（日録），その他必要な書類とともに，期限までに提出すること。 ●『第４回』：インターンシップ事後指導（９月下旬） 成績評価のための個別面談を実施する。学生が提出したレポートおよび実習の記録に基づき，教員（就職委員会委員）がヒアリング等を行う。成績評価は，レポート内容と面談の内容に基づき就職委員長名で行う。 ---------- 【派遣学生の留意点】 ●他の夏季集中講義，部活動を優先させること及びその他による，受講の取りやめ，欠席，計画の変更は絶対に認めない。 ●派遣先企業等への就職活動そのものではないことを自覚すること。また，アルバイト感覚で実習に参加しないこと。 ●研修期間中は，研修先での指導・指示に従う。正規の職員・社員と同じであることを自覚すること。 ●研修先から課される課題を，遅滞なく行うこと。 ●研修先に損害を与えてしまったときに備え，「学研災付帯賠償責任保険」（またはこれに類する内容の保険）に加入すること。 ●無報酬とし，食事代・交通費も受講学生の自己負担を原則とする。 ---------- 【受講要件（履修要件）】 ●対象学年は原則として３年生であり，かつ専門ゼミに着手していること。 ●大学が行う健康診断を受診していること。（大学の健康診断を受診していない場合は，病院や保健所等において同等の健康診断を受診すること。） ●インターンシップ説明会に参加していること。 ●原則として，事前・事後指導及び実習期間と日程が重複する科目等（夏季集中講義や短期海外研修など）との重複履修は認めない。事前に自身のスケジュール等を調整した上，期間の重複が予想される場合はエントリーをしないこと。 ●インターンシップ説明会，事前指導では，遅刻や中途退出は原則認めない。 ---------- 【選抜方法】 ※いずれも，５月上旬開催予定の「第１回 インターンシップ説明会」に出席していることを要件とする。 ●長崎インターンシップ推進協議会による斡旋企業については学生が提出する申込書（エントリーシート）に基づき同協議会でマッチングが行われる。 ●経済学部独自開拓企業については，受講希望者に派遣希望先を第３希望まであげさせ，出来る限り希望を満たすよう調整する。各事業所において，受講申し込み数が受け入れ可能数を上回った場合は，２年次までに取得した専門教育科目の評価を数値化し，その平均点により順位を算出し，上位の者を優先する。 ●学生による自己開拓企業については，学生による申請に基づき，一定の条件を満たしていることを就職委員会が審査し，派遣の可否を決定する。単位認定の条件など詳しくは「第１回 インターンシップ説明会」で確認するか，学務係に問い合わせること。

2023年度インターンシップ　経済学部独自実施分受入企業一覧

整理番号	受入企業等	住所	受入人数	期間（開始）	期間（終了）	日数	概要
E-01	株式会社　十八親和銀行	長崎市銅座町1-11	10	8/21(月)	8/25(金)	5	○1日の実習時間：8時45分～17時45分 （休憩：12時00分～13時00分） ○主たる実習場所：十八親和銀行本店10階会議室 ○実習内容：銀行業務全般
E-02	長崎財務事務所・長崎税関	長崎財務事務所 長崎市筑後町3番24号 長崎税関 長崎市出島町1番36号	4	9/7(木)	9/13(水)	5	○1日の実習時間：　9時00分　～　17時00分 （休憩：12時00分　～　13時00分） ○主たる実習場所：長崎財務事務所及び長崎税関＜長崎財務事務所3日、長崎税関2日を予定＞ ○実習内容：業務説明、現地視察（国有財産等）、業務体験 ※ 上記のほか、長崎税務署、日本銀行長崎支店等の業務説明、訪問・体験（令和4年度実績） ※ 業務内容は以下のとおり 長崎財務事務所：地方公共団体への資金の貸付、経済調査、金融機関の監督、国有財産の管理処分　など 長崎税関：輸出入貨物の審査・検査業務、船舶・航空機及び入出国旅客等の検査・取締業務、関税等の徴収業務　など
E-03	IG会計グループ	長崎市元船町14-10 橋本商会ビル4F	5	8/21(月)	8/25(金)	5	○1日の実習時間：9時00分　～　17時30分 （休憩：12時00分　～　13時00分） ○主たる実習場所：所在と同様（顧問先（県内）への同行もあり ○実習内容：オリエンテーション（会社説明・租税教室）、 中期5か年経営計画策定セミナー参加（担当者が経営者と打合せしながら経営計画を作成する形式で、そちらに同席することで会計コンサルタント業務を体感することができます）顧問先への同行訪問（監査・決算・経営会議他）その他所内作業（税理士業務の仕事体験・資料作成他）先輩社員との座談会（入社1-5年目）、フィードバック
E-04	株式会社デンソーソリューション 九州支社	福岡市博多区山王2丁目6-35	3	9/4(月)	9/8(金)	5	○1日の実習時間：9時00分　～18時00分 （休憩：12時00分　～13時00分） ○主たる実習場所：九州支社 (福岡県福岡市博多区山王２－６－３５) ○実習内容：営業会議参加、営業社員インタビュー、会社パンフレット作成、プレゼン　※詳細は別途添付のスケジュール参照ください
E-05	株式会社 不動技研ホールディングス	長崎市飽の浦町5-3 菱興ビル本館1F	1	8/21(月)	9/1(金)	10	○1日の実習時間：13時　00分　～　17時　00分 ○主たる実習場所：長崎市飽の浦町5-3菱興ビル本館1F ○実習内容：①総務業務、経理業務支援（社内報作成、郵便物管理、資料作成など）②経営企画支援（職場改善PJ資料作成、など）
E-06	長崎機器株式会社	西彼杵郡時津町元村郷820番地	3	9/4(月)	9/8(金)	5	○1日の実習時間：9時　00分　～　　17時00分 （休憩：12時00分　～　13時00分） ○主たる実習場所： ○実習内容：営業、設計、加工、組み付け　業務の全般
E-07	ひぐちグループ	西彼杵郡時津町左底郷1650-4	2	8/21(月)	9/8(金)	10	○1日の実習時間：9時　00分　～　　18時　00分 （休憩：　12時　00分　～　　13時　00分） ○主たる実習場所：ひぐちグループ本社 ○実習内容：新卒採用関連業務、SNS運用、内定者研修企画
E-08	安達株式会社	長崎市浜町1-7	2	8/28（月）	9/1(金)	5	○1日の実習時間：9時00分　～　　18時00分 （休憩：12時00分　～　13時00分） ○主たる実習場所：本社所在地に同じ ○実習内容：実際の職場で先輩社員と関わりながら業務体験をしていただくことで、「業務の流れ」や「職場の雰囲気」等を知っていただけます。また、実際の経験からお話をさせていただきますので、今後のご自身のキャリアを考える際のヒントにしていただくことができるのではと思います。

２０２３年度 経済学部「インターンシップ」

経済学部独自実施分	長崎県実施分

インターンシップ説明会（12講義室）
5月10日（水）14:30～

企業情報を公開：5月15日（月）	企業情報：県HP、キャリアセンターHP
エントリーシート期限 ：6月2日（金）	エントリー期限 ：5月12日（金）
企業とのマッチング【経済学部】	企業とのマッチング【長崎県】
結果公開：6月末日頃	結果公開：6月12日（月）
	受入日程調整： 6月12日（月） ～

自己紹介書・誓約書の提出

（応募状況によっては2次募集を実施）

インターンシップ事前指導（12講義室）
7月19日（水） 14:30～

長崎県による事前研修セミナー
（動画配信で実施予定）

インターンシップ実施期間
8月7日（月）～9月8日（金）

レポート・日誌の提出
9月20日（水） 15:00（厳守）

インターンシップ事後指導
9月27日（水） 9:00～（予定）